

県文連ふくおか

題字 / 貴 正 義

令和7年3月

76号



“革新”芸文祭がスタート!!
ありがとう 飛梅丸



福岡県文化団体連合会

表紙の光景

飛梅丸退場

「ふくおか県芸術文化祭2024」が華々しく開幕した。その盛り上げ役のアンバサダーには、福岡ゆかりの3組4人が就任した。

朝倉市親善大使も務める朝倉あきさんは、大河ドラマ「光る君へ」にも出演した期待の俳優。天神中央公園でのオープニングフェス当日、トークショーに出演。福岡や朝倉への思いを存分に語った。

若者に人気のイラストレーター A B E c h a n さんはフェスのメインビジュアルを担当した。

また、国際的にも活躍中の「ピアノ・デュオ・サカモト」の坂本彩さん・リサさん姉妹は11月28日、アクロス福岡ランチタイムコンサートに出演した。

それぞれに華やかなデビューの陰で、これまで31回の「ふくおか県民文化祭」を引き立ててきたマスコット飛梅丸がひっそりと退場した。2004年、「とびうめ国文祭」のデビューだった。飛梅丸、ご苦労様でした。ありがとう。

もくじ

ポストコロナの文化を模索

●ふくおか県芸術文化祭2024 オープニングフェス 32年ぶりにリニューアル	3	●福岡アートビエンナーレ2024開催 「この星に生きる」テーマに	12
●ふくおか県芸術文化祭 地域別事業 9ブロックで開催	4	●芸文祭 劇団青春座「西郷札」を上演 松本清張生誕115周年を記念	13
●ふくおか県芸術文化祭 分野別事業 12文化団体が開催	5	●令和7年度県民ふるさと文化講座 「われらが街を知る ふるさとはいかにして成ったか」	14
●ふくおか県芸術文化祭2024表彰式 宇田川理事長らが福岡県地域文化功労者表彰受賞 障がい児者美術展と福岡県シニア美術展表彰式	6	●県民文化大学講座ロングラン14年 正田啓佑講師が最終講義	15
●学校等芸術家派遣事業 児童養護施設と病院の院内学級も対象に	7	●地域文化芸術フォーラム&リーダー研修会 「若返りの妙薬」をテーマに約70人参加	16
●県文連新春のつどい 貫会長「県の文化力向上に尽力を」 石川雄一さんと阿部由梨佳さんが祝賀演奏	8	●第32回福岡県文化賞贈呈式 平出さんら3氏に	17
●九州交響楽団特別演奏会 ベトナム国立交響楽団メンバーと共演	9	●県庁よかもん広場で押し花展	17
●末永の森コンサートVol.85	9	●須恵町文化協会創立40周年記念式典	18
●俳句	10	●県文連ふるさと文化誌「大牟田まち物語」発刊	18
●短歌	11	●訃報 県文連特別個人会員 本山道徳さん	18
		●吉塚だより	19
		●昭和と令和の文化活動	

ふくおか県芸術文化祭2024 オープニングフェス

32年を経て「革新」
装いも新たに

リニューアル「ふくおか県芸術文化祭2024」は、令和6年10月5、6日の両日、福岡市の天神中央公園とアクロス福岡で開いたオープニングフェスから同年暮れまで3カ月、芸術の秋を彩った。



実行委員長 服部県知事

オープニングのセレモニーは、山崎北山さんが尺八、寺田蝶美さんが筑前琵琶を奏でる中、書作家の中島美紀さんがステージに登場。身を翻して大スクリーンに赤や緑などちり

ばめた上に「ふくおか県芸術文化祭2024」と記し、最後に「革新」と大書するパフォーマンスで開幕。大きな拍手が沸き起こった。

ふくおか県芸術文化祭実行委員会会長の服部誠太郎福岡県知事が登壇、30年続いた県民文化祭を、新しい新たに「革新」した意義を強調、「福岡は芸術文化の宝庫。芸術文化の秋を楽しみましょう」と呼び掛けた。続くバルーンリリースセレモ



ニーでは、県議会県民生活商工委員会の太田京子委員長らとともに開幕を祝い多くの風船を空に飛ばした。その後もステージでは、西日本短期大学付属高校吹奏楽部による演奏など多彩な催しが行われた。

オープニングフェスは、10月12日、北九州市八幡東のイオンモールひまわりの広場のサテライト会場でも開催され、福岡大学和太鼓部のショー、橘家文太さんの落語公演などが繰り広げられた。

ふくおか県芸術文化祭は、1993年から始まった「ふくおか県民文化祭」を、大幅に模様替えし、名前も変えたりニューラル版。舞踊、音楽、伝統芸能、演劇、文芸、美術など

多彩な文化芸術イベントで構成するが、県文連の地域別、分野別団体は引き続き主導的な役割を担う。



西日本短期大学付属高校吹奏楽部のステージ



ファッションショー(香蘭女子短期大学)

文化祭2024

分野別12事業を開催

地域別事業

分野別事業は、県文連加盟の各分野の文化団体が活動成果を全県的な場を設けて発表するもので、12団体によって開催された。多くの方々に芸術文化鑑賞の機会を提供することにも貢献

地域別事業は、絵画、書、舞踊、歌謡など地域の文化団体に所属するサークルで日頃から活動してきた皆さんが地域ブロックごとに一つのステージで研鑽の成果を発表し、相互交流と文化活動への参加を促すもので県下9ブロックで開催された。

県文連は芸文祭の地域別事業、分野別事業、学校等芸術家派遣事業の3つを主管事業として展開している。

ふくおか県芸術文化祭2024は、10月5日・6日のオープニングフェスを皮切りに、県下全域で様々な文化の祭典が繰り広げられ、12月の県文化賞、地域文化功労者の表彰で幕を下ろした。

文化芸術の秋

県内各地で

している。

今年度の芸文祭では、県文連は地域別9事業、分野別12事業、学校等芸術家派遣事業33校を予定通り開催し、3万2千4百人を超える皆さんの参加を得ることができた。

（地域別事業の福岡文化連盟は12ページ、北九州文化連盟は13ページを参照。学校等芸術家派遣事業は7ページを参照）



「福岡Ⅰブロック芸術文化のつどい」
宇美町文化協会役員一同によるフィナーレ



「ふくおか県芸術文化祭2024
北筑後ブロックinうきは」
うきは市合唱祭合唱団



「北九州ブロック芸能のつどい」
Kotake Music Companyの演奏



「第27回福岡Ⅱブロック
芸術の祭典in糸島」
糸島二文絆太鼓の演奏



「京築ブロック
第25回京築ふるさと文化祭」
開会式 吉富町 花畑町長あいさつ



筑豊ブロック
「吟声を聞く筑豊吟詠大会」
開催地(大任町)実行委員会の皆さん



「南筑後ブロック
芸能フェスティバル」
子供たちのバレエ

ふくおか県芸術

県内各地で地域別9事業、

分野別事業



福岡県合唱連盟
「第30回ヴォーカルアンサンブル・
フェスティバル」
Kammer Chor Nixのステージ



和太鼓友輪会
「福岡県和太鼓フェスティバル」
太祖神楽(県指定無形民俗文化財)



福岡県吟剣詩舞道総連盟
「吟剣詩舞フェスティバル」
第44回福岡県吟剣詩舞道福岡県大会」
表彰式



ふくおか県芸術文化祭俳句大会

福岡県俳句協会
「ふくおか県芸術文化祭俳句大会」
受賞者の皆さんと記念撮影



福岡県歌人会
「第32回短歌大会」
桜川冴子氏による歌集賞選評



福岡煎茶各流委員会
「第32回県民茶会」
美奈宜神社本殿で子供茶道体験



筑前琵琶福岡旭会
「第93回筑前琵琶全国大会」
演目は安達ケ原 踊りは藤間修一郎さん



ワールド・プレスフラワー協会
「押し花フェスティバル」会場風景



福岡県中学校文化連盟
「第17回 京築地区中学校 総合文化祭」
女声合唱のステージ



福岡国際バレエ劇場
「第16回バレエフェスティバル
クララの夢&ダンスコレクションズ」
ダンスコレクションズから



福岡県詩人会
「この星に生きる～詩歌の岸边にて」
会場の模様



福岡県美術協会「第79回県展」
福岡県文連賞洋画部門
「ウクライナII 戦禍の街」澁田繁晴

宇田川理事長ら2氏1団体表彰

福岡県地域文化功労者

ふくおか県芸術文化祭2024の表彰式が令和6年12月22日、太宰府市の九州国立博物館ミュージアムホールであり、福岡県地域文化功労者として福岡県文化団体連合会の宇田川宣人理事長ら2氏と1団体が表彰された。表彰式では、服部誠太郎知事から受賞者に賞状と記念品が手渡された。

長年の活動により地域文化の振興に貢献した個人・団体を表彰する福岡県地域文化功労者表彰は、平成19年度に始まった。前年度までに53個人・団体が受賞している。

宇田川さんは、東京芸術大学大学院在学中に初の個展を開催して以降、活発な創作活動を受け、国内外で高い評価を受けている。昭和46年に九州産業大学芸術学部教授となり、長年、後進の指導育成に努め、学部長や学長を歴任した。また、アジア美術家連盟日本委員会代表など多くの文化関連団体の要職を務めるなど、県の文化振興に大きく貢献した。

宇田川さんは受賞について「福岡市美術連盟の発足に関わるなど様々な形で地域の文化振興に貢献できたことをありがたく感じており、今回



の受賞は光栄です」と話している。

他の受賞者は、福岡県美術協会元理事で西日本画連盟会長の江藤紀世さん（岡垣町）、「人生史サークル黄櫨の会」（八女市）。

江藤さんは日本画家として数多くの賞を受賞、平成9年度以降、福岡県美術協会の会員や理事として県内を中心に美術の普及・振興に尽力。指導者としても県展会員などを輩出した。

人生史サークル黄櫨の会は、人生史について寄稿してもらった同人誌「黄櫨」を年に3回出版。文化セミナーを27年間継続し、自分史図書館を筑後市に開館するなど地域文化の振興に貢献した。



受賞者の皆さん
右から江藤紀世さん、宇田川理事長、知事、牛島一美黄櫨の会代表

県知事賞など表彰

障がい児者とシニア美術展

ふくおか県芸術文化祭2024の表彰式では、ふくおか県障がい児者美術展と福岡県シニア美術展の表彰も行われ、服部誠太郎知事から賞状と記念品が手渡された。また、障がい児者美術展の審査員と受賞者によるギャラリートークも開催された。

障がい児者美術展には670点の応募があり、入賞作品15点と佳作作品85点が選ばれた。入賞者は次の通り。

- ▽県知事賞（一般絵画）竹田寛隆（同書道） 錦戸甲人（同写真） 宮本たまな（小中学生絵画） 久松碧理（同書道） 三浦花（同写真） 大城戸紅葉
- ▽県議会賞（一般絵画） 多比良澄生（同書道） 高山小夏（同写真） 荒川喜来（小中学生絵画） 原竹歩（同書道） 森心暖（同写真） 緒方優季
- ▽県教育委員会賞（小中学生絵画） 松尾愛希（同） 矢川拓人（同書道） 三山華凜

シニア美術展には、60歳以上の県内在住者から7部門に461点の応募があり、89人が受賞した。各部門



の最優秀賞（県知事賞）は次の通り。

- ▽（日本画）井上喜四三（洋画）中瀬久隆（彫刻） 泉谷健一（工芸） 山田宏（書） 小柳節香（写真） 川原裕子（デザイン） 近藤紀子

敬称略
なお、障がい児者美術展は令和6年11月から同7年1月にかけて県内5会場で、シニア美術展は同6年10月に福岡県立美術館で開催された。

障がい児者美術展表彰



障がい児者美術展 県知事賞受賞者の皆さん

学校等芸術家派遣事業

今年度から県文祭は、ふくおか県芸術文化祭としてリニューアルされたが「芸術体験講座」も名称を「学校等芸術家派遣事業」に変更して実施された。プロのアーティストを学校に派遣して、子どもたちに真の芸術を体験させるという目的はそのま

まに、派遣先を従来の県内小中学校、特別支援学校だけでなく、児童養護施設と病院の院内学級も対象とした。児童養護施設は報恩母の家など

3施設、院内学級は九州大病院と久留米大病院の2学級が参加した。全体の派遣数も昨年の12校から33校に拡大されている。

ジャンルは演劇、音楽、邦楽・伝統芸能、総合芸術から県内で活躍するプロ芸術家の24集団・個人の登録を受け、学校側の要請に応じて派遣している。今年度は17のプロ集団が参加した。子どもたちからは、「いろいろな

音楽の演奏を聞いたり、ダンスと一緒に踊ったり、とても楽しくあつという間の時間でした」、「小さなバイオリンや、大きなハーブの体験までさせてもらえてうれしかった」などの感想が寄せられた。

今年度から対象となった院内学級は病院内のため実施にはいくつかの制約があったものの、関係者の調整によって実施できた。学級の担当者は「普段なかなか体験できないのはもち

ろん、長期入院中の子どもたちや日々付き添いを続ける保護者にとつて、美しい歌と楽器の音色は心を癒し元気をもらえたことと思う。皆さんが夢中で見つめ聞き入っていた姿が印象的だった」との声を寄せた。

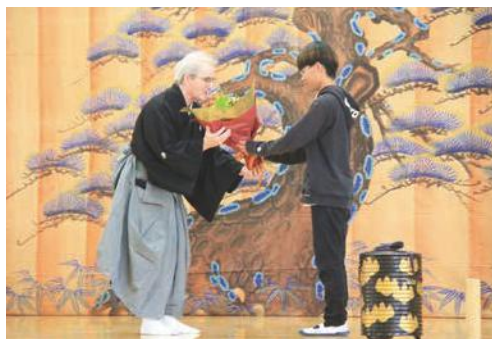
前身の芸術体験講座は平成17年度から県内の小・中学校児童生徒を対象として始まり、当初から数えて20回を迎えた。この20年間に累計518校で実施したことになる。



高槻小学校 ふれあいコンサート実行委員会



枝光小学校 子どもに能楽を勧める会



大正小学校 福岡大蔵会



落合小学校 大体2mm

令和6年度 県文連新春のつどい

和やかに交流、親睦深める



貫正義会長

福岡県文化団体連合会の「令和6年度新春のつどい」が令和7年1月29日、福岡市中央区天神のソラリア西鉄ホテル福岡で開催された。各地域の文化協会や文化連盟、文化団体の代表、特別個人会員など73人が出席して和やかに交流、懇談しながら親睦を深めた。

開会のことばは、県文連の石川純一副会長が務めた。貫正義会長は「リニューアルして名称も変えて再出発した、ふくおか県芸術文化祭は、分野別事業12件、地域別事業9件に約3万2千人の参加があった。皆さんご苦労さまでした。今後も県の文化向上に力を尽くしてほしい」

とあいさつした。

祝宴では、福岡を拠点に活動するギター奏者の石川雄一さんとフルート奏者の安部由梨佳さんが演奏を披露した。宮城道雄作曲の「春の海」や松任谷由実作詞作曲の「春よ、来い」など、今年に明るい年にとの願いを込めた4曲を奏で、会場は一足早い春の雰囲気にも包まれた。

乾杯の音頭を取った宇田川宣人理事長は「芸術」の文字を加えて名称を変更した、ふくおか県芸術文化祭の県文連の125



フルートの安部さん、ギターの石川さん

事業も皆さんの支えで滞りなく終了した。福岡県はもともと芸どころだが、今後もみんなが芸術に親しむ社会にしていきたい」と述べた。

コース料理を楽しみながらの懇談の合間にステージでは、カラオケの時間も設けられた。福

岡県美術協合理事長の小田部黄太さんの「サボテンの花」を皮切りに特別個人会員の高瀬昭登さんと県文連調査役の竹川克幸さんらが得意の曲を披露した。今回の新たな趣向として「新春福引」があった。特別個人会員の今林久さんの陶芸作品、県文連顧問の是澤清一さんや宇田川理事長が描いた風景の色紙な



今林久賞 今林さんが手渡し



県文連会長賞 貫会長と



吟詠「宝船」吟剣詩舞道総連盟の皆さん



是澤清一賞 当選！

ども景品として提供され、当選番号が発表されるたびに拍手や歓声が上がするなど会場は大いに盛り上がった。林田スマ県文連副理事長が「皆さんとこれからも楽しいことを重ねていきたい」と閉会のことばを述べ、「香の会」代表理事の梶島禅徹さんによる博多手一本で締めくくった。

九州交響楽団特別演奏会

福岡市民ホール開館記念

ベトナム国立交響楽団メンバーと共演 シヨパン「ピアノ協奏曲」、「新世界より」

九州交響楽団は4月25日夜、福岡市民ホール（天神5丁目）の開館を記念して大ホールで、ベトナム国立交響楽団メンバーとの共演による特別演奏会を行う。

演奏曲目はシヨパンのピアノ協奏曲第1番ホ短調作品11、ドヴォルザークの交響曲第9番ホ短調「新世界より」作品95。指揮は同楽団音楽監督兼首席指揮者の本名徹次氏、



ベトナム国立交響楽団メンバー



ピアノはグエン・ヴィエット・チュン氏。

本名氏は、東京国際音楽コンクール最高位など入賞多数。ミラノ・スカラ座管など一流オケを指揮。2001年よりベトナムで現職。日越外交樹立50周年の23年には日越合作新作オペラ「アニー・姫」を成功させた。グエン氏は、1996年ハノイ生まれのベトナム音楽界期待の星。2021年シヨパンコンクールの活躍が有名。

チケットはS席6000円、A席5000円、B席4000円、学生席1500円。九響チケットサービス092(823)0101で発売中

弦楽器で「新しい風」

6・29末永の森コンサート ドヴォルザークとロッシニー

末永の森コンサートvol.85は、6月29日（日）午後3時から、福岡市七隈の末永文化センターで開く。「九響の新しい風」弦楽器の調べとともに」と銘打って、九響の若手奏者がロッシニーとドヴォルザークの名曲を贈る。

曲目は、ロッシニー「6つの弦楽のためのソナタより第2番イ長調」、ドヴォルザークが「弦楽五重奏曲第2番ト長調」。

美、竹下芳乃、ピオラ・矢島千愛、チエロ・森百々恵、コントラバス
|| ヤオ・ジェンヤン（客演）。

チケットは前売り1000円、当日券1300円。お求めは末永文化センター

092(821)3338へ。

後援会入会呼びかけ

末永の森コンサート協会では、2025年度後援会に入会を呼びかけている。年会費は101万円、入会者には特典として、年4回行う同コンサートの入場券を1公演につき2枚（年間8枚）進呈する。申し込み、問い合わせは末永文化センター092(821)3338へ。



俳句

「青嶺」主宰 岸原清行

「青嶺」は平成十三年、「地平」継承。師系は野見山朱鳥、児玉南草。岸原は現在、俳句協会顧問、(社)俳人協会名誉会員。

桜

仰ぎ見るわが祖の山のやま桜
花咲くと松山杉山呼び合へる
梵鐘の笛吹く天女さくら散る

「玄海」主宰 大石靖子

「玄海」は平成六年、小島隆保が博多で創刊。師系は高濱虚子、高濱年尾、稲畑汀子、稲畑廣太郎。花鳥諷詠の理念を現代の視点で問い続ける。平成二十八年三代目主宰となる。

別の貌

新しき日日を信じて年の夜
大年の天果てしなく続きをり
去年は去年今年は別の貌をして

「光円」主宰 服部たか子

「光円」は「円」終刊を継ぎ平成二十年七月、田代朝子の下に創刊。二十七年主宰交代。師系は岡部六弥太。自然と人と交響を詠む。

次の旅

ミサイルを溶かす月光ならばよし
次の旅の話秋刀魚を解しつつ
懐に秋風を入れ持ち帰る

「さわらび」主宰 介弘紀子

昭和二十二年、川上朴史が大牟田で創刊。平成三十年第四代主宰となる。師系は、稲畑汀子、稲畑廣太郎。客観写生、花鳥諷詠を理念とする。(公・社)日本伝統俳句協会理事。

神の御手

神の御手よりこぼれくる冬日かな
青空を鏡としたる冬桜
城の空新しくして冬木の芽

「自鳴鐘」主宰 寺井谷子

「自鳴鐘」は、昭和十二年横山白虹により創刊、二十三年に復刊。平成十九年横山房子逝去により主宰継承。現代俳句協会特別顧問。

春の昼

ひとりふたりの転居が続く春の昼
春の昼に続く雪なり別れなり
春の雪言葉短く手を振れり

「天籟通信」代表 福本弘明

昭和四十年、穴井太が北九州市で創刊。高く遊ぶことを旨とし、自由で個性豊かな集団を目指す月刊同人誌。現代俳句協会副会長を務める。

春キャベツ

落ちてより空を近くに作る椿
天晴というほかはない春キャベツ
春雨や明治はさらに遠くなり

「冬野」主宰 持永真理子

「冬野」は、大正十二年創刊。令和三年二月、五代目の主宰継承。師系・高濱虚子、高濱年尾、稲畑汀子、稲畑廣太郎。花鳥諷詠を信条に面白みのある句を目指したい。

玉せせり

関の声あぐる締め込み玉せせり
宮崎の杜を揺るがす玉せせり
子勢子らも眉つりあげて玉せせり

【俳誌名五十音順】



ふくおか県芸術文化祭2024 俳句大会
表彰状の授与

短歌

職退きて出番少なきわが背広 縊れしお前を飲み連れゆく
企業戦士の意気と矜持を掲げ来し社章外しし背広の軽さ

植村 隆雄
「橄欖」

エンドレスにわが身をつつむテノールの消えることなし「黒の舟歌」
夕くればがらんどろなるわたくしに夕やけ色のふくやのめんたい

西城 燁子
「未来」

慎ましく生きたる母の証なり肥料袋が折りたたまれて
父逝きて五十年の時を経て同じ骨壺に母は納まる

栗原 正嗣
「歩行」

疲れ果て初めて座った優先席バスの窓には青空いっぱい
ろうばいの甘き香りにほだされて春を匂わす厳寒の風

元村より子
「さんぼあ」

秋時間こぼれて失くす心地する診察5分、待ちが2時間
カルガモの群れる川面に揺れながらマガモ一羽が付かず離れず

増田 柳子
「コスモス」

福岡アートビエンナーレ2024開催

「この星に生きる」テーマに

福岡都市圏を中心に活動するアーティストの集まりである福岡文化連盟（理事長＝柴田建哉・西日本新聞社会長）主催の「福岡アートビエンナーレ2024」が昨年11月から12月にかけて、福岡市美術館、隣接する大濠公園日本庭園、市内外のギャラリーで開催された。

ビエンナーレの名の通り、2年に



会員の力作が並ぶ「アート展」

一度の総合芸術祭。福岡市美術館に会場を移してからは二度目の開催だが、美術に限らず音楽、文芸、伝統芸能などさまざまなジャンルのエキスパートが「同居」する福岡文化連盟らしく、伝統から現代まで、和洋さまざまな「アートの形」を展示する場として、市民や美術愛好家にも徐々に定着してきたと自負している。

今回掲げた総合テーマは「この星に生きる」。物理的にも精神的にも「分断」が進む世の中で「共生」の意味を、まずアーティストから発信したいーとの思いで出品を呼びかけ、会員以外も含め延べ約300人が参加した。本展に相当する「アート展」は人間国宝2人を含む工芸や絵画、彫刻、書、デザインなどの会員約100人が出品。交流関係にある韓国・釜山芸術文化総連合会からも写真家4人が来日、合流した。

今回の「目玉」だったのが、美術と文芸のコラボによる特別展「あか



太竹や廃紙を使った「花のあかり」

り」。戦争や災害犠牲者への追悼、平和への祈り、明日への夢を託そうと会場中心にシンボル作品「花のあかり」を置き、それを「アートのあかり」と「言葉のあかり」が取り囲む構成とした。会場照明を思ったほど暗くできなかったのは「愛敬だが、「花のあかり」前では連日、詩の朗読会もあり、来場者の心を少しは温かく照らせたのでは、と思う。

もう一つの「目玉」は美しい紅葉を背景に和風建築の空間が広がる、大濠公園日本庭園。和風空間を意識したインスタレーションを各所に置き、各流派の生け花を配置。週末は福岡では珍しい香席、文化連盟の

工芸作家らによる茶碗や茶道具を使った茶席を随時開催。インバウンドを含む大勢の来場者でにぎわった。

このほかにも日本舞踊の祝舞、音楽家によるミニコンサート付きの開幕セレモニー、趣旨に賛同した市内外4つのギャラリーを開場した「この星に生きる」ギャラリー展など盛りだくさんの企画を展開。来場者総数も約4000人に達し、よく言えば多様性に満ちた、言い方を代えるとも何でもありの総合芸術祭を楽しんだ。今後も、多士済々な才能を擁する福岡文化連盟ならではの企画で、福岡のアートシーンを盛り上げたいと思う。

福岡文化連盟事務局長・北里晋



香席とそのイメージによる床の間のインスタレーション

松本清張生誕115周年を記念

青春座「西郷札」を上演

ふくおか県芸術文化祭2024

ふくおか県芸術文化祭2024参加、劇団青春座（和田正人代表）による「西郷札」の公演が2024年11月23、24日に北九州市小倉北区の北九州芸術劇場で行われた。

北九州市を拠点とする劇団青春座は、1945（昭和20）年創立の全国でも最も古いアマチュア劇団の一つとされる。地域に根ざした劇団として、北九州市ゆかりの題材を数多く取り上げている。

「西郷札」は、北九州市ゆかりの作家、松本清張の文壇デビュー作品で、直木賞の候補にもなった。明治10年



和田正人代表



の西南戦争で薩摩軍が軍資金捻出のために発行した軍用手票・西郷札は、薩摩軍が敗北すると信用をなくしてしまった。「西郷札」の物語は、その軍用手票1枚と「覚書」が或る新聞社へ送られてきたところから始まる。劇団青春座245回公演で、柏田道夫・作、馬淵理麻・演出、権頭喜美恵・制作。一般公募による参加者が新たに15人出演した。

2024年は、松本清張の生誕115周年に当たり、同劇団は5月

には同じく清張原作の「ゼロの焦点」の公演も行った。

劇団青春座は、空襲により焼け野原が広がっていた八幡の地で、終戦の年の10月に誕生した。これまでに「小倉城の女たち」や「若戸大橋物語」などの「郷土シリーズ」、公害問題の「ある町の高い煙突」や終活の「エンディング・ノート」などの「現代シリーズ」の二つを柱に毎年公演を行っている。現在の団員は約50人で、10代から80代まで幅広い年代が集まっている。劇団はサントリー地域文化賞、

地域文化功労者大臣表彰、福岡県文化賞など数々の受賞歴を誇る。

また前座長の井生定巳さんは平成24年から県文連常任理事、同28年から5年間副会長も務められ、県の文化振興に貢献された。

劇団創立から80周年を迎える2025年は、ふくおか県芸術文化祭で11月22、23日に「無法松の一生」を上演する。また、6、7月に戸畑区と若松区での朗読劇上演、10月に創立80周年の感謝の集いなども予定している。



「西郷札」の舞台から

令和7年度 県民ふるさと文化講座

～われらが街を知る ふるさとはいかにして成ったか～



梶原 伸介 講師



石瀧 豊美 講師



竹川 克幸 講師



赤司 善彦 講師



牛嶋 英俊 講師



水原 道範 講師



河村 哲夫 講師



守友 隆 講師

令和7年度の県民ふるさと文化講座は、4月17日、アクロス福岡2階セミナー室を会場にスタートする。今回の年間を通したテーマは「われらが街を知る ふるさとはいかにして成ったか」。休講の8月を除く毎月第3木曜 日午後1時半から3時まで開講する。県民ふるさと文化講座は、ここ数年にわたり私たちの身近な地域を取り上げてきた。「街道と旅 文化のクロスロードを行く」「川と水辺から辿るふるさと文化史」「ふるさととの山々 信仰と祈りの文化」と年間テーマを定め、ふるさととの歴史と文化に光を当ててきた。

歴史、人物、文化などを取り上げて、歴史や考古学、郷土史などの専門家が講義を展開していく。受講料は1回千円で年間通し1万円。申し込みは県文連事務局へ。定員は60人、先着順。

電話 092(643)2875
ファックス 092(643)2876

3月13日、6年度修了式

令和6年度県民文化大学講座は、3月13日、正田啓佑講師の「呂坤と『呻吟語』」最終講義で幕を閉じる。

県民ふるさと文化講座も、同日最終日で、県文連顧問で歴史作家の河村哲夫さんが「麻氏良山と斉明天皇」を講義する。

両講座ともこの日、修了式を行う。

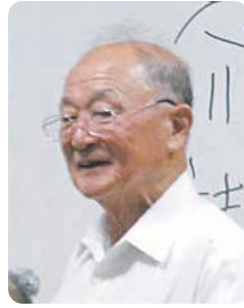
日程	テーマ	講師
令和7年 4月17日(木)	「官兵衛がつくった博多、長政がつくった福岡」	福岡地方史研究会 会長 石瀧 豊美
5月15日(木)	「福岡市の誕生の顛末」	福岡地方史研究会 会長 石瀧 豊美
6月19日(木)	「古代大宰府の成立と外交」	大野城心のふるさと館 館長 赤司 善彦
7月17日(木)	「久留米(演題未定)」	久留米市文化財保護課 水原 道範
8月	休 講	
9月18日(木)	「小倉城と城下町の歴史」	北九州市自然史・歴史博物館 学芸員 守友 隆
10月16日(木)	「大牟田 三池藩の成立と展開」	三池カルタ・歴史資料館 館長 梶原 伸介
11月20日(木)	「飯塚(演題未定)」	日本経済大学経済学部 教授 竹川 克幸
12月18日(木)	「直方 忽然と成立したニュータウン」	直方郷土研究会 会長 牛嶋 英俊
令和8年 1月15日(木)	「柳川城の運命」	福岡県文化団体連合会 顧問 河村 哲夫
2月19日(木)	「柳川の城下町①」	福岡県文化団体連合会 顧問 河村 哲夫
3月19日(木)	「柳川の城下町②」	福岡県文化団体連合会 顧問 河村 哲夫

* 状況により日程・内容は、変更する場合があります。その際には、事前にご連絡いたします。

県民文化大学ロングラン14年

今年13日に最終講義

疋田先生、ありがとうございます



疋田 啓佑
福岡女子大学名誉教授

疋田啓佑福岡女子大名誉教授が講師の令和6年度県民文化大学「呻吟語」を読む」が3月13日の講義で終講となります。

疋田先生には、2011年「アジアの心を学ぶ」、翌年「九州の思想家たち」に始まって、これまで14年間にわたって通年講座を担当していただきました。

振り返ってみると、ご専門の中国古典を軸に、日本の儒学はもとより東アジアに広がる儒教文化圏を視野に入れた、ハイレベルな内容でした。講義の進展に合わせて、『言志四録に学ぶ』『吉田松陰の講孟余話』『儒者』



『貞観政要を読む』『呻吟語』など先生の自著が紹介されました。

中でも、2016年の「言志四録」に学ぶ」は、江戸の儒学者佐藤一斎の『言志四録』を熟読玩味した西郷隆盛が「敬天愛人」の言葉に凝縮させた、と学んで、受講生はNHK大河ドラマ「西郷どん」の興趣を高めたものでした。

同様に、吉田松陰の妹をヒロイン



県文連特別文化貢献者表彰（2023）
受賞スピーチをされる疋田先生

に松下村塾の志士たちを描いた大河ドラマ「花燃ゆ」も、18年の講座「吉田松陰の『講孟余話』『孟子』を読む」が、いい手引きになりました。

最後の2か年は、中国明末の官僚で儒学者の呂坤（りこん）（1536～1612）が書き残した大著『呻吟語』からピックアップして、その政治思想、社会観、人生論などを講義されました。

受講生にしてみれば、多分に難易度の高い内容でしたが、先生は現代の政治や世相に重ね合わせたりで、ユーモアも交えて極力分かり易く、と努められました。

先生は、旧満州で昭和12年（1937）12月7日生まれ。西郷隆盛と同じ誕生日とか。今年暮れには88歳の米寿を迎えられます。

心身ともにご健康で、月に一度の講義は、福津市の自宅からJRでほぼ1時間、博多駅から会場のアクロスまでは毎回歩いておいででした。ウォーキングは日課で、時間があれば城山や立花山などの山歩きを楽しむ、という健脚ぶりです。

この元気さで、これからはライフワークの、呂坤の大著『呻吟語』の完訳に取り組み、と力強く言われます。

県民文化大学14年

講師・疋田啓佑

福岡女子大学名誉教授

- 2011 「アジアの心を学ぶ」
- 2012 「九州の思想家たち」
- 2013 「古典を愉しむ」
- 2014 「知の巨人たち」
- 2015 「知の巨人たちⅡ」
- 2016 「言志四録」に学ぶ」
- 2017 「日本の思想に影響与えた朱子学と陽明学」
- 2018 「吉田松陰の『講孟余話』『孟子』を読む」
- 2019 「中国の漢詩を読む」
詩経から毛沢東まで」
- 2020 「中国古典の名文を読む」
- 2021 「中国の古典より格言・箴言を読む」
- 2022 「貞観政要を読む」
- 2023 「呂坤と『呻吟語』」
(前期4～10月)
- 2024 「呂坤と『呻吟語』」
外編を読む」



令和6年度 地域文化芸術フォーラム & リーダー研修会



ファシリテーター
長崎県立大学
教授 鳥丸 聡さん

福岡県文化団体連合会が主催する令和6年度の地域文化芸術フォーラム&リーダー研修会が令和6年9月26日、福岡市博多区の吉塚合同庁舎3階研修室で開催、加盟団体会員や行政関係者ら約70人が参加した。

県文連の宇田川宣人理事長は開会あいさつで「文化団体などの深刻な高齢化の問題について、どうすれば若者を取り込むことができるかなどについて皆さんでディスカッションして有意義な会にしてほしい」と述べた。

第1部のフォーラムのテーマは「若返りの妙薬はいかが？」まずは「話だけでも」。文化協会や文化団体メンバーの高齢化の問題が言われて久しい。しかし、一気に解決する手段はなかなか見いだせないのが現状で、各団体の取り組み、若い人たちの考えを直接聞きながら

「若返りの妙薬」をテーマに 70人参加し意見交換

ら改善に取り組みヒントを探るのが狙いだ。フォーラムでは、古賀市文化協会の吉田義徳会長、森部忠彦副会長、石川純子副会長、太宰府市文化協会会計担当の杉山綾野さん、北九州文化連盟の和田正人専務理事が登壇。県文連の江崎雅彦専務理事が聞き手・進行を務めた。

古賀市文化協会は県内で唯一NPO法人の認証を受けており、吉田会長らはNPO法人化のメリット、デメリットを語ったほか、子どもたちを対象にした夏休み体験教室などの取り組みを紹介した。

太宰府市文化協会で会計を担当している20代の杉山さんは「私の次に若い人は70歳で協会メンバーの年齢差が大きい」と指摘した。劇団青春座の代表を務める和田さんは若い世代の入会促進について「足を使い、地域のイベントに顔を出して、とにかく声を掛けることが大事」と話した。

第2部のリーダー研修会では、第1部で示された問題提起やヒントを受けて「若返りの妙薬ってある?! 私たちの体験から」をテーマに、ワールドカフェ方式（カフェのような雰囲気、少人数のグループに分かれて話し合い、メンバーを変えながら対話する手法）で意見交換した。参加者の意見をまとめるファシリテーターは、例年と同じく長崎県立大学教授の鳥丸聡さんが務めた。

参加者は4、5人ずつのグループに分かれてテーブルに座り、フォーラムでの問題提起や発言を基に、20分程度のセッションを繰り返しながら参加者全員で意見を交わした。その上で「役員の年齢制限」

「企業との連携、商工会議所・公的機関との協定」「文化協会の活動内容を身近に触れられる環境をつくる」「SNS・YouTubeの活用」など、出された課題や問題点を模造紙に書き込んでいった。

ファシリテーターの鳥丸さんは「伝統的工芸品に見る人材と組織の新陳代謝」を例に、目線を変えて見ると新しいことが見えてくると述べ、「今回のフォーラムを今後の活動に生かしてほしい」と語った。

「伝説的工芸品に見る人材と組織の新陳代謝」を例に、目線を変えて見ると新しいことが見えてくると述べ、「今回のフォーラムを今後の活動に生かしてほしい」と語った。

太宰府市文化協会



会計担当
杉山 綾野さん

北九州文化連盟



専務理事
和田 正人さん

古賀市文化協会



副会長
石川 純子さん



副会長
森部 忠彦さん



会長
吉田 義徳さん

平出さんら3氏に福岡県文化賞

贈呈式と記念イベント

第32回福岡県文化賞の贈呈式と記念イベントが令和6年12月15日、福岡市のアクロス福岡で開かれた。受賞者は、創造部門が詩人・作家・造本家の平出隆さん、社会部門がアーティスト・イン・レジデンス運営の

松崎宏史さん、奨励部門が截金作家の江里朋子さんで、



松崎 宏史 さん



江里 朋子 さん



平出 隆 さん

知事から賞状とトロフィーが贈られた。

福岡県文化賞は、県民の幅広い文化活動を促進し、文化の向上・発展を図るために平成

服部誠太郎 江里さんは、仏教美術の截金技術を工芸品や建築装飾に展開し截金の可能性を広げる作品を創作。福岡と京都を行き来しながら、截金体験講座などの活動も行っている。

贈呈式と記念イベントでは、豊前市の三毛門子ども神楽の祝舞が披露された。また、劇団シヨーマンシップ座長の仲谷一志さんをナビゲーターに、トーク&ライブがあり、受賞者が自身の活動の原動力などについて語った。

松崎宏史さん、奨励部門が截金作家の江里朋子さんで、

松崎さんは、世界各地で展示を行い、故郷の糸島市にアートカンパニーを設立。美術教育や美術作品制作事業を手がけ、国際芸術祭「糸島芸農」も開催、地域に浸透している。

5年度に創設され、これまで123の個人・団体を表彰してきた。受賞者の平出さんは、詩と散文にまたがる領域を切り開き、小説「猫の客」は25カ国語に翻訳出版された。一方、出身地の北九州市でも後進の育成に取り組んでいる。

華やかな押し花の作品展

県庁よかもんひろばで開催

県文連加盟のワールド・プレスフラワー協会福岡県支部の支部長を務める牧園和香子さんから3人の「押し花・チーム牧園」による押し花展が2025年2月12日から3月28日まで、福岡県庁11階の「福岡よかもんひろば」で開かれた。

ふくおか県芸術文化祭2024の押し花フェスティバルをきっかけに、押し花展を含む花の企画展「花と生きる！LIFE×LIFE FUKUOKA」への参加の呼び掛けがあり実現したという。



展示作品の一部

押し花展の会場には大小の絵画作品を中心にオブジェや小物まで、華やかで繊細な押し花の作品が並んだ。会期中には「押し花でボールペンをつくろう！」のワークショップや押し花に関する講演なども行われた。

創立40周年を祝い記念式典

須恵町文化協会

須恵町文化協会が創立40周年を迎え、令和6年11月4日にアザレアホール須恵で記念式典を開催した。同協会は昭和59年9月に発足し、現在は第10代の入江潤三会長のもと、教養、美術、芸能の3部門の各サークルに会員約250人が所属している。

入江会長は創立40周年の記念誌で「須恵町文化協会の魅力を発信して加入サークルや会員数の拡大を図りながら、これからの担う若い世代の方々との交流も一段と図って、新たな文化活動の展開にも取り組んでいきたい」と抱負を記している。

創立40周年の記念式典では、入江会長があいさつ、来賓の平松秀一町長や県文連の宇田川宣人理事長らが来賓祝辞を述べた。永年講師や功労者の表彰があり、文化協会の40年の歩みを映像で紹介した。第2部では、福岡奏オーケストラによる記念演奏

会があり、映画「美女と野獣」メドレーなどが披露された。

このほか、創立40周年記念行事として令和6年7月から翌7年2月にかけて、三野原元澄・三野原病院院長の文化講演会、ミュージカル「オオカミ君のパン」などの舞台鑑賞会、須恵町美術展、文化協会のサークル会員らが芸能を披露する芸文祭がいずれもアザレアホール須恵で催された。



須恵町文化協会創立40周年記念式典

ふるさと文化誌第13号

『大牟田まち物語』を発行

県文連刊行のふるさと文化誌シリーズ第13号『大牟田まち物語』が、3月初め発行された。

石炭産業とともに発展してきた町・大牟田。それを物語る三池炭鉱関連の遺構群は、旧八幡製鉄などとともに「明治日本の産業革命遺産」に、2015年に世界文化遺産に登録された。

燃える石の発見に始まり、日本一の出炭量を誇った繁栄の陰で、炭塵爆発の大惨事や空前の大労働争議も体験した石炭の歴史は、『大牟田まち物語』の大きなテーマになっている。

大牟田地域はその昔、筑後国三毛郡の一部だったが、この「三毛」の名の由来を巡る伝承も取り上げ

ていて興味深い。景行天皇伝説にある「御木国」説が知られているが、「御食」説もあるとか。三毛郡の地名は、中世になると、今日なじみ深い「三池郡」に変わった。

大牟田が市制を施行したのは1917（大正6）年で県下では6番目だった。市制10周年記念で26年に開催した国産共進会には70万人が、30年後の57年の大牟田産業科学大博覧会には60万人がそれぞれ入場する大盛況ぶり。石炭のまじのパワーを見せつけた。

大牟田の意外な二つの顔も紹介されている。日本のカルタと押し花文化の発祥の地だとう。

『大牟田まち物語』は定価600円。県文化団体連合会事務局で販売中。令和7年度ふるさと文化誌は第14号『春日まち物語』（仮題）に決定。令和8年3月発行予定

訃報

県文連特別個人会員 本山道徳さんご逝去



本山 道徳さん 令和6年11月23日、病気のため96歳でご逝去。県文連特別個人会員。西都洋裁学院、西都ファッショビジネス学院の院長を長年務め、日本デザインクラブ九州支部長などを歴任。櫛田神社の氏子で博多祇園山笠東流れ総務、博多松囃子東流れ頭取などを務めた。県文連恒例の新春のつどいでは、毎回、博多手一本の締めをリードした。平成30年、福岡文化連盟青木秀賞大賞。

吉塚だより

個人的に所属している直方文化連

合体である文連の長い活動の軌跡

盟が本年、創立70年の節目を迎える。同文連は、終戦から10年後の1955（昭和30）年12月に直方文化連合会として誕生し、県文連加盟の63市町村団体の中で、4番目の歴史を誇る。

直方文連の昨年の総会で「地域の文化活動と文化団体へ直方文連創立70周年に向けて」と題して話す機会があり、発足当初からの資料を探した。その過程で残っている資料の少なさに驚いた。会報さえも、バックナンバーがきちんとは残っていないのである。

創立70周年を迎えようとするのに、いまだに文連専用の事務所がなく、資料の保管場所に苦労したのでは、と同情する余地もないではない。しかし、文化団体の集

昭和と令和の文化活動

は、地域の文化活動の歴史の一端を物語るものであり、残念な思いが募る。

一方、昭和時代の会報からは当時の文連の楽しそうな活動ぶりが伝わる。仮装行列した際の文連メンバーの笑顔の写真が残り、「直方文連の歌」の合唱の記事もある。直方ゆかりの作家、林芙美子の文学碑建立に向けては料理屋での懇談も重ね、その中から名物「芙美子鍋」が生まれた。

今日の令和の世には時代に即した文化活動のやり方があるのだろうが、ゆとりや遊び、楽しさの要素が薄れつつあるのでは、という気掛かりもある。

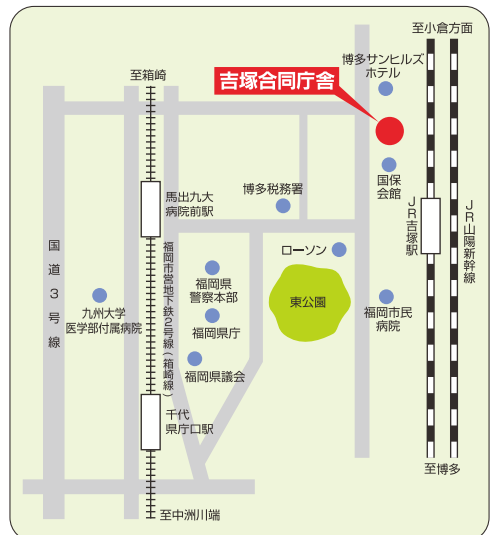
（木下）

福岡県文化団体連合会

平成4年（1992）11月、県内で活動する地域別の文化団体67、分野別25の計92団体が参加して結成。16年秋には、県と協力して第19回国民文化祭ふくおか2004（愛称「とびうめ国文祭」）を推進、大成功を収めた。創立以来、毎年、県民文化祭を開催するほか、県民文化大学講座など独自の文化企画を展開している。現在は地域別63団体、分野別23団体、特別個人会員48名が加盟。末端会員は推定20万人。

県文連ふくおか 76号

発行 令和7年3月
福岡県文化団体連合会
専務理事 江崎 雅彦
広報編集委員 古賀 透、木下 良弘
〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50
TEL 092 (643) 2875
FAX 092 (643) 2876
印刷 川本印刷株式会社
〒812-0888 福岡市博多区板付二丁目5-20
TEL 092 (591) 5110
FAX 092 (591) 5113





ふくおかの文化をはつらつと

福岡県文化団体連合会

Fukuoka Prefecture Cultural Group Federation



ホームページは「県文連」で検索

県文連



賛助会員の紹介

▼ 企業 団体会員

- (公財)アクロス福岡
- アジア美術家連盟 日本委員会
- 飯塚信用金庫
- 一番食品(株)
- 英進館(株)
- (株)エルテックス・ヨシダ
- (有)海鳥社
- 九州電力(株)
- (公財)九州交響楽団
- (株)九電工
- (株)Q T net
- 久留米運送(株)
- (公財)末永文化振興財団
- 西部ガスホールディングス(株)
- (株)如水庵
- 人生史サークル黄櫨の会
- 蝶屋(株)
- (学)中村産業学園 九州産業大学
- (株)西日本シティ銀行
- 西日本鉄道(株)

▼ 個人会員

- 西日本プラント工業(株)
- 日本経済大学 地域連携センター
- (公財)日本習字教育財団
- (株)日本旅行九州法人営業部
- (株)ひよ子
- (株)ピアノターミナル・ナカムラ
- 福岡県教育庁部課長会
- 福岡県教育庁参事・補佐会
- (株)福岡銀行
- 福岡県信用保証協会
- ふくおかアジア文化塾
- (株)福岡こどもクラブ
- (NPO)文化ボランティア
- とびうめの会
- (株)山口油屋福太郎
- (50音順)
- 唐川 茂樹
- 岡 征二
- 王寺陽一郎

賛助会員の募集

福岡県文化団体連合会では、福岡県の文化振興並びに文化活動を側面から支援していただく企業及び個人の賛助会員（企業・団体1口：1万円、個人1口：5千円）を募集しています。この機会に、賛助会員として加入していただき、新たな県民文化創造へ継続的にご支援、ご参加くださいますようお願いいたします。

賛助会員に
対する特典

- 1 会報「県文連ふくおか」の送付(年2回)
- 2 会報とホームページへの賛助会員の掲載と紹介
- 3 その他、県文連主催行事、関係情報の提供

〈加入方法〉

福岡県文化団体連合会事務局

TEL.092-643-2875に連絡ください。

追って手続き書類をお送りしますのでよろしくご願いたします。